

令和6年1月9日

1月号

# 緑小だより

横浜市立緑小学校



ふれあい 学びあい みとめあう みどりっ子

Mail: y3midori@edu.city.yokohama.jp URL: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/midori>

## 子どもの幸福度

校長 寺澤 みゆき

令和6年を迎えました。地域や保護者の皆様にとって、今年も幸多き年でありますようお願いしております。

昨年4月に緑小学校へ着任し、子どもたちの無邪気さと人懐っこさ、保護者の方々の温かく協力的な姿に、感動と感謝の9カ月間でした。全校の子どもと言葉を交わしたいという思いがあり、後期から朝の正門前に立たせていただくことにしました。朝の子どもたちの交通安全指導にご協力いただいているPTAの皆様、本当にありがとうございます。

朝、門の前に立って挨拶をしていると、様々なことに気づきます。表情や「おはよう」の声の大きさ、服装から、「今日は楽しみなことがあるのかな。」「家でいいことがあったのかな。」「心配事があるのかな。」と感ぜられることもありますし、子どもの方から、家や友達のこと、先生とのこと、困っていることなど。毎日、誰かしらが話しかけてくれます。緑っ子のよさをたくさん感じる至福の時間です。

11月後半から、6年生の卒業アルバムの文集を読ませてもらいました。6年間の楽しかったことや頑張ったこと、そして将来の夢など、明るく希望に満ち溢れた文がたくさんありました。

人権週間だったこともあり、様々な資料を見ていたところ、「子どもの幸福度」という言葉に目が留まりました。それは、ユニセフのリサーチ部門が、2020年に発表したものでした。

調査では、幸福度を3つの側面、①精神的幸福度（生活満足度が高い子どもの割合や自殺率）②身体的健康（子どもの死亡率、過体重・肥満の子どもの割合）③スキル（読解力・数学分野の学力・社会的スキル）から結果を導いたものでした。それによると、日本は「身体的健康」は世界38か国中1位だったものの、「スキル」は27位、そして、「精神的幸福度」は下から2番目の37位だったのです。

「精神的幸福度」を測る設問の1つ、「最近の生活全般にどれくらい満足しているか？」では、満足度を0（最低）から10（最高）の数字で回答を求めたところ、日本では、6～10と答えた子どもが62%だったということです。その報告書の分析では、子どもの幸福度は、「子どもの世界」だけでなく、「子どもを取り巻く世界」、そして「より大きな世界」に影響を受けると考えると述べられていました。子どもの幸福度を上げるには、社会や家庭、学校が一丸となって取り組んでいかななくてはならないということなのです。

おりしも、今年度の横浜市学力・学習状況調査の本校の結果が届きました。（学力等の詳細な分析結果については、後日お知らせいたします。）その中で、幸福度にも大きく関係があると思われる設問、「自分にはよいところがあると思いますか」「自分のことが好きですか」の結果に注目してみました。学年ごとに差はあるものの、緑小学校の児童は、「自分のことが好き」に肯定的な回答が84～74%（横浜市81～74%）、「よいところがあると思う」に肯定的な回答が88～79%（横浜市84～81%）でした。「横浜市の結果」との差はそれほどありませんが、否定的な回答が2割程度あるということを私たち大人はしっかりと受け止める必要があると考えました。

「自分が好き」という気持ち、自尊感情は人との関わりの中で涵養されるといいます。地域、家庭と手を携え、子どもの自尊感情を育む教育について考え実践していく緑小学校でありたいと、新年を迎え、強く思いました。

今年も、昨年と変わらずのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。